

広報誌「あるもに Vol. 26」発行のご案内



このたび、当社の企業活動へのご理解を深めていただくため、広報誌「あるもに」Vol. 26を発行いたしました。

広報誌「あるもに」は、ステークホルダーの皆様に、当社に対する理解・共感を深めていただくためのコミュニケーションツールとして2006年7月に創刊いたしました。誌名の『あるもに“harmonie”』は、仏語で協調・調和・共鳴を意味しています。お客様や地域社会と共鳴し合い、お役に立ち喜ばれる関係を築き上げ、信頼される会社をめざす意味が込められています。

当社は、Mission（経営方針）である「社会価値創造企業」をめざして、より豊かな社会づくりに貢献してまいりますので、引き続きご支援とご理解を賜りますようお願い申し上げます。

【あるもに Vol. 26概要】

1. 特集「挑む」

(1) 巻頭インタビュー

①川部誠治（日立キャピタル株式会社 代表執行役 執行役社長）

②羽生善治（棋士）

※将棋界で初の7タイトル独占を達成するなど、日本棋会の最高の実力者であり、常にトップを走り続けている。

③鯉淵美穂（MIKAWAYA21代表取締役社長）

※地域密着で子どもからシニアまで安心して暮らせる社会の実現に取り組むベンチャー企業を運営。（鯉淵氏は2016年10月31日に同社を退任）

(2) クローズアップ「次世代技術に挑む」

坂村健（東京大学大学院情報学環教授）

※工学博士。東京大学大学院情報学環教授。専攻はコンピュータ・アーキテクチャー（脳建築学）。

2. インタビュー「私の原点」

原晋（はら・すすむ）

※青山学院大学陸上競技部監督。15年に同校を箱根駅伝初優勝、16年に2年連続総合優勝および、1区から10区まで一度も首位を譲らない完全優勝という快挙を達成。

3. 日立キャピタルグループのソリューション紹介「ファイナンスの新しい風」

営業態勢を強化し、お客さまの真のパートナーへ

—地方創生への貢献をめざす、日立キャピタルの法人事業本部の取り組み—

(1) 法人事業本部：安栄執行役インタビュー

(2) 事例紹介

①イベントホール実現で東北復興に寄与——— 社会・産業営業部の取り組み

②子どもたちを守る防犯カメラをリース方式で導入——— 関西法人支店の取り組み

4. 日立キャピタルレポート（トピックス）

5. 業績のご報告（第60期 第2四半期連結累計期間）

以 上